

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築造形 A		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	30
		⑥ 授業形態	演習
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれ、この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>イントロプログラムにより事前に授業概要を把握させ、スクーリング型で建築のかたちと空間をデザインコンセプトモデル(模型)を作成し発表会の形で表現する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 2 時間目	課題説明		
3 ~ 4 時間目	基本的な要素		
5 ~ 6 時間目	ソリッドとボイドとの関係		
7 ~ 8 時間目	モノのかたちと空間の関係性		
9 ~ 10 時間目	建築をデザインするということはどのような行為か		
11 ~ 12 時間目	建築空間の造られ方		
13 ~ 14 時間目	空間の構成		
15 ~ 16 時間目	空間を仕切るということ		
17 ~ 18 時間目	境界を穿って開口をつくる		
19 ~ 20 時間目	機能や人の動線と空間		
21 ~ 22 時間目	空間・造形スタディ		
23 ~ 24 時間目	スタディ模型		
25 ~ 26 時間目	プレゼンテーション1		
27 ~ 28 時間目	プレゼンテーション2		
29 ~ 30 時間目	講評		
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
		著者：	
	教材	配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060401

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	構造力学Ⅰ 演習		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	20
⑦ 担当教員(代表)	森 登	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>構造上、安全な建築物であることを確認する過程に、建築構造設計がある。その構造設計を行うために必要となる構造力学の基礎について学ぶ。内容は静定構造物を主に扱い、その構造物を構成する部材に働く力の大きさや部材の断面形状による力学的性質等である。また木材、コンクリート、鋼材といった建築材料を建築部材として使用した場合の簡単な部材設計も行う。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>講義は、(1) 構造力学概要、(2) 力、(3) 構造物、(4) 静定梁、(5) 静定ラーメン、(6) 静定トラス、(7) 断面の力学的特性、(8) ひずみ度と応力度、(9) 部材の設計、(10) 梁の変形 に分けて行い、修了後2課題を与えレポートを提出させる。また10個の設題を設け科目終末試験で理解度を確認する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~	1 時間目	構造設計力学概要	
2 ~	3 時間目	力	
4 ~	5 時間目	構造物	
6 ~	7 時間目	静定梁	
8 ~	9 時間目	静定ラーメン	
10 ~	11 時間目	静定トラス	
12 ~	13 時間目	断面の力学的特性	
14 ~	15 時間目	ひずみと応力度	
16 ~	17 時間目	部材の設計	
18 ~	19 時間目	梁の設計	
20 ~	20 時間目	修了試験	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	初めての建築構造力学	出版社： 学芸出版社
			著者： 建築のテキスト編集委員会
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060431

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築材料学				
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	20	⑥ 授業形態	講義
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。				
⑩ 授業の目的・目標					
<p>建物を設計し施工するには建築に使用する材料の特性を熟知し、適切な材料が選択できるようにならなければならない。その地域で生産される素材や、規格され工場生産された多くの材料の建築との関係を見直し、すべての材料に対して、安全で合理的に使用できるように学ぶことが大切である。</p>					
⑪ 授業の概要					
<p>自宅あるいは知人の住宅の屋根、各室の床、壁、天井、窓などに要求される性能、及び実際に使用されている材料の名称と特徴をレポートとして提出させる。又10項目の設題をつくり主な建築材料の特性や使用目的を学ばせる。</p>					
⑫ 授業内容・授業計画					
1 ~	1 時間目	コンクリート、鉄骨			
2 ~	2 時間目	木材			
3 ~	3 時間目	プラスチック			
4 ~	5 時間目	屋根材、外壁、床、天井			
6 ~	6 時間目	窓・ガラス、雑材料			
7 ~	20 時間目	各自によるレポート作成			
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
~	時間目				
⑬ その他	教科書	建築材料を学ぶ -その選択と施工まで-	出版社： 理工図書		
	教材		著者： 畑中重光他6人		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060409

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築史		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	20
⑦ 担当教員(代表)	澤田 多喜二	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
日本建築・西洋建築・近代建築の変遷と、各時代・地域における様式・構造・技術の特徴を理解し、それらをつくりだした理念や社会背景など文化の特質についても考える。			
⑪ 授業の概要			
各時代の権力者は政治・経済・文化を背景にその時代の先端技術・芸術を駆使し見事な空間・構造・装飾による建築を創造し続けた。一方、庶民はその地方性、風土性の影響の中で伝統的な技術手段でゆっくりとした変遷を辿り美しい民家・町家を造り続けた。近代に入ってこの2つは普遍化し現代建築が展開している。この歴史の中で専門家達（僧侶、棟梁、職人、建築家、技術者）が各時代に何を基本的技法手段で建造したのか、その内容を深く学びとることが明日の建築文化を創造する大切な姿勢である。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～	1 時間目	日本古代の建築	
2 ～	2 時間目	日本中世の建築	
3 ～	3 時間目	日本近世の建築	
4 ～	4 時間目	西洋古代の建築	
5 ～	5 時間目	西洋中世の建築	
6 ～	6 時間目	西洋近世の建築	
7 ～	7 時間目	近代建築の発生	
8 ～	8 時間目	近代建築の発展	
9 ～	9 時間目	日本の近代建築	
10 ～	20 時間目	各自によるレポート作成	
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
～	時間目		
⑬ その他	教科書	建築史 増補改訂版	出版社：市ヶ谷出版社 著者：藤岡通夫 他
	教材	日本建築学会 各建築史図集（彰国社）他	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060432

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工学		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)	高野 太輔	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>現地調査・見積もり・入札・契約から始まり、施工計画図・施工図の作成、材料・機械・労務の手配、各種工事の実施と管理、完了後の竣工検査までの施工の一連の流れを学ぶ。さらに熟練労働者の不足・現場作業の合理化の遅れ・現場災害の克服、現場一品生産からプレファブ化へ技術革新、管理技術の向上、大量に発生する産業廃棄物の問題などについて認識を持たせる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>良いものを、如何にして、安く、早く、安全に、周囲の環境を損なうことなく造るにはどうしたらよいか。そのためには単に施工技術の知識技能だけでなく、材料の性質・構造原理・各種法規・環境工学等の知識が必要である。請負契約と見積、工事計画と施工管理、各種工事の施工法、完成後の施設の維持管理などの技術・知識及び関連している分野の知識を総合的に学習する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~	1 時間目	請負契約と積算	
2 ~	2 時間目	工事計画・管理	
3 ~	3 時間目	仮設工事	
4 ~	4 時間目	土工事・地業工事	
5 ~	5 時間目	鉄筋コンクリート系工事	
6 ~	6 時間目	鉄骨系工事	
7 ~	7 時間目	木質系工事	
8 ~	8 時間目	仕上げ工事	
9 ~	9 時間目	設備工事	
10 ~	10 時間目	解体工事と建築廃棄物処理	
11 ~	11 時間目	維持管理、施工機械	
12 ~	24 時間目	各自によるレポート作成	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	建築施工教科書	出版社： 彰国社
			著者： 建築施工教科書研究会
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060413

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計 II - a		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	38
		⑥ 授業形態	演習
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案プレゼンテーションの方法を身につける。			
⑪ 授業の概要			
商業施設、街かどのギャラリーなど、イメージしやすい規模と用途を持ち、地域に開かれた機能を持つ施設について、コンセプト作りから始め、模型作成とエスキスを行い、具体的な空間デザインを進める。各個人で図面や模型をまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 10 時間目	課題説明。商業施設など、地域に開かれた機能を持つ施設の設計		
11 ~ 26 時間目	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める		
27 ~ 38 時間目	図面と模型をまとめて個人発表		
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
~ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版 著者：日本建築学会編
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060420

授業計画（シラバス）

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅲ－a		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	38
		⑥ 授業形態	演習
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>「建築設計 II-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>中心市街地や住宅地で求められる複合機能の公共施設の設計を通じ、機能と空間の両面から、地域の風景に調和した公共空間をデザインする手法を学ぶ。作品は、スタディ模型を利用しながら各個人で図面としてまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 10 時間目	課題説明。中心市街地等で求められる複合機能の公共施設の設計		
11 ～ 26 時間目	複合機能の公共施設の設計とスタディ模型の作成		
27 ～ 38 時間目	プレゼンボードの作成等と個人発表		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版 著者：日本建築学会編
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060421

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	測量学		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)	岩雲 康弘	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築学・土木工学・都市工学に必要な測量学の基礎について学ぶ。本科目では、測量の原理を正しく理解し応用出来る知識を修得するために、測量技術の基本となる距離測量・角測量・水準測量・トラバース測量・平板測量などの正確な測定方法及び面積計算、および各種測定において生じる誤差の原理の意味とその調整方法を学習する。また、建築現場における各種工事施工にともなう建築測量の実際、および、近年の最新測量技術としての光波測量・GPS等についても学ぶ。</p>			
⑪ 授業の概要			
①測量の起源と推移 ②測量のための数学 ③距離、角、高さの測量 ④位置決定のための測量 ⑤地形測量 ⑥建築測量 ⑦デジタル・サーベイニング			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~	1 時間目	測量の起源と推移	
2 ~	2 時間目	測量のための数学	
3 ~	3 時間目	距離、角、高さの測量	
4 ~	4 時間目	位置決定のための測量	
5 ~	6 時間目	地形測量	
7 ~	8 時間目	建築測量	
9 ~	10 時間目	デジタル・サーベイニング	
11 ~	24 時間目	各自によるレポート作成	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	最新測量学	出版社： 森北出版
	教材		著者： 上浦正樹 他
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060422

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	地球環境と建築		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)	荒居 秀征	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築がどれだけ地球環境問題の解決に寄与できるか、その理念や目標、具体的な手法を理解し、サステナブル社会におけるこれからの建築のあり方を示す地球環境建築について考える。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>1. 様々な環境問題の理解と社会における動向の把握 2. 環境負荷の少ない持続可能な建築のあり方 3. 環境負荷の少ない持続可能な都市・地域のあり方</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~	1 時間目	地球環境と建築、その時代背景	
2 ~	2 時間目	地球環境建築の基本的視点	
3 ~	3 時間目	地球環境建築のビジョンとつくり方、使い方	
4 ~	4 時間目	気候風土と省エネルギー	
5 ~	5 時間目	都市環境と熱、エネルギー	
6 ~	6 時間目	建築の省エネルギー	
7 ~	7 時間目	ライフサイクルエネルギー	
8 ~	8 時間目	パッシブデザイン・アクティブデザイン	
9 ~	9 時間目	建築の寿命、資源の有効利用	
10 ~	10 時間目	安全と健康	
11 ~	11 時間目	デザインプロセスと評価	
12 ~	12 時間目	社会システムと建築専門家の役割	
13 ~	24 時間目	各自によるレポート作成	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	地球環境建築のすすめ	出版社： 彰国社
	教材		著者： 日本建築学会編
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060423

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	福祉と建築		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	20
⑦ 担当教員(代表)	児玉 道子	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
福祉支援に関する法制度や高齢者・障害者の身体的特徴、福祉住環境整備の技術的内容について学習し、ノーマライゼーションの概念に基づいた、バリアフリーやユニバーサルデザインの具体的な計画・設計手法について理解する。			
⑪ 授業の概要			
1.福祉住環境における基本的考え方 2.高齢者・障害者の心身特性と環境整備のポイント 3.日本の住宅と住生活上の課題 4.福祉住環境整備実現のための基本的知識と技術 5.高齢者・障害者のための住環境整備関連施策 6.福祉住環境整備に関わる法規等			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~	1 時間目	現代社会に望まれる住環境	
2 ~	2 時間目	福祉住環境の意義と役割	
3 ~	3 時間目	高齢者・障害者に対する環境整備の意義	
4 ~	4 時間目	高齢者・障害者の身体特性	
5 ~	5 時間目	障害者の各疾患と環境整備	
6 ~	6 時間目	生活活動から見た福祉用具	
7 ~	7 時間目	日本の住宅と住生活上の課題	
8 ~	8 時間目	各部屋・場所の具体的環境整備	
9 ~	9 時間目	福祉住環境整備に関わる法規等	
10 ~	20 時間目	各自によるレポート作成	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	福祉住環境 新版	出版社：市ヶ谷出版
	教材		著者：水村容子
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060424

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	景観論		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)	細野 耕司	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>日本では景観の価値が未だ、国民のコンセンサスになっていないといわれている。風景や景観についての議論は盛んであるし、景観学や景観設計についての研究も進んでいるが、日本の景観はなかなか美しくならない。そこでこの科目では景観とデザインについての両文献から建築デザインとはどういうものなのか学んでいく。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>自分が住んでいるまち並みの景観について調査し、変わってほしいところは、どのようなどのようなデザインすればよいかを写真やスケッチ、図表等によりビジュアルに表現する。また、変わってほしくないところはどのように保全されてきたのかを調査しレポートする。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~	6 時間目	自分の町の景観について調査	
7 ~	8 時間目	調査結果のまとめ	
9 ~	10 時間目	変わってほしい所と変わってほしくないところを明確にして、レポートの構成を考える	
11 ~	24 時間目	各自によるレポート作成	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	景観用語事典増補改訂版	出版社： 彰国社 著者： 篠原修
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060426

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	ワークショップ概論		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	選必A	⑤ 時間数	30
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：</p> <p>(1)「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）</p> <p>(2)コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）。</p> <p>(3)場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築は、学校以外のさまざまな場所や社会において他者との対話によって創り上げられていくものであり、その過程での多様な主体との協働がワークショップである。演劇での創造的な活動に根差したその原点から、現代のさまざまな合意形成の場面で欠かせない手法に展開したワークショップの理論と実践を学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	オリエンテーション		
3 ～ 4 時間目	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）		
5 ～ 6 時間目	ワークショップ体験（アイスブレイク）		
7 ～ 8 時間目	コミュニケーションの基礎		
9 ～ 10 時間目	ファシリテーションの基礎		
11 ～ 12 時間目	ファシリテーションの準備（1）		
13 ～ 14 時間目	ファシリテーションの準備（2）		
15 ～ 16 時間目	ファシリテーションの本番に向けて（1）		
17 ～ 18 時間目	ファシリテーションの本番に向けて（2）		
19 ～ 20 時間目	ファシリテーションの本番		
21 ～ 22 時間目	ワークショップのプレゼンテーション・ワークショップの総仕上げ		
23 ～ 24 時間目	ファシリテーションの本番（2）		
25 ～ 26 時間目	ファシリテーションの本番（3）		
27 ～ 28 時間目	ファシリテーション全体のまとめと振り返り		
29 ～ 30 時間目	振り返り：まとめと未来に向けて		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	ファシリテーション入門〈第2版〉	出版社： 日本経済新聞出版 著者： 堀 公俊
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060451

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	プレゼンテーション概論		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	選必A	⑤ 時間数	100
⑦ 担当教員(代表)	木下 太	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準			
⑩ 授業の目的・目標			
<p>自ら発する情報内容の羅列に留まらず、聞く、見る側にたって、必要な情報を絞り込み、美しき的確で分かりやすく丁寧に伝える事を学ぶ。</p> <p>また、伝える情報はどのような階層（年齢、性別、専門分野、素人、玄人その他）の人々に対して、所謂第三に向けて分かりやすいように多言語認知が可能なように表現する。すなわち全てを視覚的に可視情報へ変換して伝達できるようにすることを学ぶ。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>プレゼンテーションは、自らの企画・提案や設計・研究の成果等を他者に伝える上で必須かつ重要な手段の一つであり、その重要性は近年大きくなっている。IT技術活用も含めた表現力、分析力、構成力を養い、総合的な伝達力を学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 2	時間目	課題の説明および選択	
3 ~ 46	時間目	プレゼンテーションパネルの制作	
47 ~ 85	時間目	模型の制作	
86 ~ 94	時間目	レポート作成	
95 ~ 100	時間目	作品の提出	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	レイアウト、基本の「き」	出版社： グラフィック社 著者： 佐藤直樹
	教材	建築プレゼンの掟	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060452

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計 I - b		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	選必A	⑤ 時間数	100
⑦ 担当教員(代表)	市田 彰秀	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
題の与条件を読み解き、建築設計としての提案をまとめ、伝える能力の習得			
⑪ 授業の概要			
<p>課題を設計していく過程において、製図の方法を学び製図術を身につけながら、建築という三次元の空間の造形力とセンスを養う。</p> <p>店舗併用住宅を設計することで、住宅、店舗、工場など建築の基本的用途について、どのように設計したら快適な住まい、及び繁盛する店舗デザイン、合理的で使いやすい作業空間がよいか同時に学んでいく。模型で造形をスタディし、デザインボードでプレゼンテーションの技法を習得して建築デザインの基本をマスターすることを学習の目標としている。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 10	時間目	店舗併用住宅の設計条件の整理	
11 ~ 26	時間目	ゾーニングやエスキスによる案の構想	
27 ~ 50	時間目	スタディ模型の制作	
51 ~ 80	時間目	JIS建築製図通則に基づいた各種建築図面の作図	
81 ~ 94	時間目	設計作品としてのプレゼンテーションテクニックの修得	
95 ~ 100	時間目	作品手直し	
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
~	時間目		
⑬ その他	教科書	建築設計教室新訂2版	出版社： 彰国社
			著者： 建築設計教育研究会編著
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060453

授業計画 (シラバス)

【2025年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅱ－b		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	選必A	⑤ 時間数	100
⑦ 担当教員(代表)	蜂須賀 亮子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
歴史性や既存建物との関係性などの文脈を理解し設計する能力を身につける			
⑪ 授業の概要			
「建築設計Ⅱ－a」で学んだ建築設計・デザイン能力を更に磨くため、通信課題として設計作品の制作に取り組む。既存施設との関係性をテーマにした設計課題での主旨を十分に理解し、建築設計に関わる様々な要件を満たしながら、提案性のある魅力的な建築設計を目指す。文献調査や既存建築物の見学、構想・企画においてのエスキス、手書きやCADを用いた各種図面の作図、そして設計意図を的確に表現した作品制作など一連の設計作業を通して、総合的に建築設計が行える能力を養う。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 10 時間目	課題設定 (前川國男自邸)・敷地設定・計画内容について		
11 ～ 22 時間目	前川國男について調査		
23 ～ 36 時間目	前川國男自邸の資料入手および調査		
37 ～ 50 時間目	歴史的建築物の保存と再生・活用についての手法を学ぶ		
51 ～ 64 時間目	前川國男自邸を生かしたプログラムを考える		
65 ～ 78 時間目	前川自邸の何を残し、何を新しくするのかを考える		
79 ～ 90 時間目	空地へ設計する新たな建築と、前川自邸をどのように関係させるかを考える		
91 ～ 98 時間目	建物の機能性について		
99 ～ 100 時間目	2つの建物の調和について、ランドスケープデザイン		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版 著者：日本建築学会編
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060454

